



「謹んで新春のお慶びを申し上げます」

昨年を振り返りますと、当救命救急センターは、ソフト面・ハード面とも大きな変革を遂げた年となりました。ソフト面では、新たなスタッフを例年以上に多数むかえることができ、活気に満ちた環境の中で、チームが一丸となり活動してまいりました。ハード面では、高度な画像診断（CTや血管造影）と治療（手術や血管内治療）を、患者さんが一切移動することなく行うことが可能となるシステムである「ハイブリッドER」を全面的に稼働させ、心疾患に伴う心停止や重症外傷など、緊急度の特に高い患者さんに対し、世界的にも先進的な医療を提供できる体制が整いました。相変わらずコロナ禍の最中にはありましたが、新型コロナウイルス感染症の診療と通常の重症救急診療を両立させ、ソフト面ハード面の変化とあいまって、これまで以上に質の高い医療を提供するための地盤を固めることができた一年となりました。今年は特にソフト面でさらなる成長を図り、昨年固めた地盤に堅牢な「城」を建築し、地域の皆様に安心していただける確固たる存在になるべく、一同精励してまいります。今年もよろしくお願いいたします。

遅めの夏休みに家族で訪れた奄美大島の海に魅せられました。奄美大島は、東シナ海と太平洋という二つの異なる海に面しており、それぞれが全く別の素晴らしい顔を持っています。私にとりましては縁もゆかりもない土地ではありますが、将来は奄美大島の海を眺めながら、のんびり過ごしたいです。個人的には、東シナ海推しです。



「新年明けましておめでとうございませう」

今年、癸卯（みずのと・う）の年、2023年は、この十千十二支でいうと「これからの成長や飛躍のために力をため準備し育んできたことが十分に実り、芽吹き始める年」だそうです。新年を迎え、これまでの準備は良いかと自身を振り返り、気持ちを新たにしております。

昨年末の新聞記事に「世界の人口80億人突破」とあり、中国とインドで共に14億人を超えており、インドは今年、中国を抜いて世界最多の人口大国になるとみられているようです。一方、日本を含む61か国・地域は2050年までに人口が1%以上減少すると予測されています。人口増加する国と減少していく国の世界構図を考えると、ロシアのウクライナ侵略をはじめ世界の戦争が本当に愚かな行為であると改めて感じます。日本は世界で類を見ない超少子高齢社会となり、働く人口も減少しています。この先労働力を海外に頼らざるを得ない状況となるでしょうが、すでに介護の世界では人口増加国から日本に多く入ってきています。医療の世界でも遅かれ早かれ体制を整えていく必要があるかと考えています。そこには、言葉の問題が大きく立ちまわっていますが、成人だけでなく日本に来たその幼い子供達にも、ダブルリミテッドという問題が起っています。

これらの一助となるように、現在私は、教育学を大学で学んでいます。仕事があるので歩みはゆっくりですが、冒頭に記したように、今まで準備し育んできたことが芽吹き始め、ウサギのようにジャンプできたら嬉しいと思っています。文化庁では日本語教員免許を国家資格で検討中とのことですが、卒業後この日本語教員免許を取り、日本語を母語としない人々に、日本での生活・学業・仕事など困らないように日本語を教えていければと思っています。様々な国の人々と平和で共に生きていく事が現在の私の夢です。



「新年明けましておめでとうございませう」

約3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症は、いまだ収束していない状況ではありますが、皆様におかれましては、感染予防対策を意識しながら、まだ、流行前と同じとは言えないまでも、以前の日常生活を徐々に取り戻していきつつあるのではないかとご推察いたします。

さて、教育分野におきましても、文部科学省が昨年の11月29日付けで「座席配置の工夫や適切な換気の確保等の措置を講じた上で、給食の時間において、児童生徒等の間で会話を行うことは可能」という事務連絡を発出したように、児童・生徒の成長過程において対応の変化が見取れるようになってきております。

新型コロナウイルス感染症への対応はまだ必要だとは認識しておりますが、その他の治療もその患者様にとっては、最優先する大切なものでもあります。当センターにおきましても、感染予防対策を十分に意識しつつ、当センターでの治療等が必要とされる患者様に寄り添って、その時々々の状況に柔軟に対応しつつ、医療を提供していくことができるように努めてまいりますので、本年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

私の夢は、仕事においては、医療などを通じてこの地域の「健康寿命」を一年でも多く伸ばすような事業に携わることができれば幸せかなと考えております。

個人的な夢としては、若い頃、海外旅行を通じて異文化などを楽しんだことを思い出し、時間が許すような環境に身を置くことができれば、これからは観光になるかもしれませんが、様々な場所で、多くの方々と触れ合う時間を共有してみたいと思っています。